

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	運営者、職員とで作り上げた事業所独自の理念がある。	
2	○理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	玄関やリビングに理念が掲示されている他、理念カードを作成し職員が常に携帯しており、実践に生かされるよう努めている。	○ 今後とも常に入居者を中心とした視点でいられるよう、理念を実践できるように取り組んでいきたい。カードが行き渡っていないので、持っていないスタッフへの配布を行う。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	ご家族には入居前に説明。また、家族会や運営推進会議等への参加や、アウル通信、事業所のパンフレットなどを通し、理念や取り組みを地域住民の方々にも理解して頂けるよう取り組んでいる。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	近隣住民の方と積極的に挨拶を交わし、顔を覚えていただけるように努めている。また、野菜やお花などを頂いたり、夏祭りに声を掛け一緒に盆踊りを楽しんで頂くなど、付き合いの幅も少しずつではあるが広がりがつつある。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	自治会に加入し、ホームの行事で盆踊りをする際地域の踊りの会の方を招いたり、子ども会のお神輿が来た際には入居者が皆で玄関に出てお賽銭を入れるなど、地域の人々と交流する機会が出来るよう努めている。また、市や自治会の主催する行事へ手伝いとして参加することもあるが、その数は多いとは言えない。	○ 外出の出来る入居者は積極的に地域の行事に参加できるようにしていきたい。また、行事への参加、協力を通じ地域とのつながりを深め、ゆくゆくは自治会の中で福祉の相談窓口等になれば良いと思う。
6	○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	電話での相談や、ホームに来られた方への対応など担当職員により行われている。また、運営者は地域の講演会や学校等で認知症に関する講義や認知症サポート養成講座等を行い、地域の高齢者への理解を広めることに貢献している。さらに、運営推進会議を通じ、市担当職員や民生委員と共に地域高齢者の状況などについて話し合い、視野を広げ取り組んでいけるよう努めている。	○ 清掃活動に参加するなど、今後さらに地域住民の一人として貢献していけるよう努めたい。また、施設長を中心として認知症キャラバンメイトを行い、地域住民に対し認知症への理解を広げていく活動にも努めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>運営者より、自己評価、外部評価の意義に対し毎年説明があり、理解した上で評価実施されている。また、その評価結果を謙虚に受け止め、全体やユニット毎で具体的な改善に向け話し合いを行い、早急に対応するよう努めている。</p>		
8	<p>○運営推進介護を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>運営推進会議を通し情報交換を行い、質問や意見を頂き、それに対し報告や返答を行っている。運営会議をホームの行事や全体会議と組み合わせることにより、担当以外のスタッフも地域役員の意見を聞く機会が出来るが、大半の会議内容が参加職員以外には周知されていないのが現状である。</p>	○	運営推進会議で話し合われた内容を全体会議やユニット会議等でスタッフ全員に周知してほしい。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>月一回発行のアウル通信を担当者に渡し、ホームの活動内容を理解していただけるよう働きかけている。頻繁な行き来はないが、必要に応じ情報交換、報告や相談を行っている。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>成年後見制度を活用していた例もあり、全体会議にて資料を配布し勉強会が行われたが、全職員への周知には至っていない。</p>	○	新たに入社した職員もいるので再度確認も含め行いたい。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p> <p>日頃よりケアを通じて話し合いがもたれ、虐待防止に努めている。また、家族を含め関わる者の話しをよく聞き、ストレスを抱えないようアドバイスを行う等、早期発見や防止に努めている。</p>	○	勉強会という形は取ったことがないので全体会議内等で行いたい。
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>契約、解約時は本人や家族の環境や状況を理解した上で、ゆっくりと時間をかけ不安や疑問点に対し説明を行い、理解・納得を得ている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>13 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>職員は入居者が日常的に思いを伝えやすい関係作り、雰囲気作りを心掛けており、意見や不満に耳を傾け、支援に反映させている。また、苦情ボックスを玄関に設置している。</p>		
<p>○家族等への報告</p> <p>14 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>	<p>月一回発行のアウル通信に入居者の暮らしぶりなどコメントを添えて家族に送付している。その際預かり金の領収書を同封し、支出入や残高の報告を行っている。その他に体調等の変化があった場合など、その都度電話にて報告・相談を行っている。</p>	○	<p>面会に来られた家族に対して、どのスタッフも報告できるように、日々スタッフ間での引き継ぎ、細かい情報交換を今後も行っていきたい。</p>
<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>15 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>契約の段階から苦情や意見の受付先を説明し、管理者が回答・検討し、苦情者への迅速な改善報告を行い、運営に反映させている。玄関には苦情ボックスを設置しているが、直接職員へ伝得ていただけるよう信頼関係を築く努力をしている。また、苦情を寄せられた際は、運営者を通し市担当職員へ相談し、意見を頂くよう取り組んでいる。外部機関の苦情受付の連絡先も入居契約書に記載、説明を行っている。</p>		
<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>16 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>全体会議、ユニット会議等の他、日頃から意見や提案などを話しやすい雰囲気にある。</p>		
<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>17 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>利用者の状況・状態に合わせた勤務体制が確保されており、状況に応じ勤務時間の調整が常時行えるよう全職員の協力・理解を得ている。</p>		
<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>18 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>全職員がどちらのユニットでもスムーズに支援にあたれる関係性を築いており、離職・異動によるダメージを最小限に抑える配慮を行っている。</p>	○	<p>離職や、それに伴う異動等やむ終えず起こった場合は、残ったスタッフが連携し入居者に負担がかからないよう今後も努めていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p> <p>段階に応じ外部研修に参加し、学びの機会を設けている。また、月一回のユニット会議や全体会議等での施設内研修や、外部から研修生を受け入れ意見交換を行うことにより、知識・技術の向上に努めている。</p>		
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p> <p>西胆振の近隣市町村で構成される西胆振グループホーム広域連絡会へ参加し、同業者との勉強会や交流、情報交換を行い、質の向上に努めている。</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p> <p>運営者はスーパーバイザーとしての役割を担い、常に職員個々の考えや行動を受け入れ、理解されている。管理者は、職員の精神的・身体的状況を常に配慮しており、職員相互が気兼ねなく話し合える環境、雰囲気作りに努めている。また、年に数回親睦会を開催し、交流・息抜きの場としている。</p>		
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p> <p>各自が向上心を持って働けるよう、日頃より必要な助言・アドバイスを頂いている。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>本人の状態確認を含め家族を交え本人と面談し、不安・要望を聞き、ホームの内容説明を行っている。また、本人にホームを見学していただくことで、雰囲気を感じていただき、関係性を築く機会を多く持っている。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>家族が納得されるまで何度も聴く姿勢と機会を作り、安心と信頼関係を築くよう努めている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	その時の本人・家族状況を見極め、家族の要望なども聞き入れ、状況に合わせて他のサービス利用の提案、紹介も含めた対応が速やかに実行できるよう努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	本人の不安等が最小限で入居していただく為、入居前に短時間でも過ごして雰囲気をつかんでいただける様な機会を作る等工夫をしている。また、入居後最低一週間は家族へその日の状態や他者との関わりの様子などを伝える為電話連絡を入れ、安心して新しい環境に馴染めるよう情報交換を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	入居者と職員は、お互いに助け合い、楽しみを分かち合い過ごしている。職務ではなく、共に生活をするという家庭的な雰囲気、一緒に出来ることを探し、共に学び感謝できる関係を築くよう努力している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	日常生活の報告や相談を常に行える関係を築いている。話合い、情報を共有することで、家族が疎外感を感じることなく、一緒に入居者を支えて行けるよう取り組んでいる。	○	気軽に話して頂けるよう信頼関係を深め、面会時等には近況や容態を具体的に話すことで家族にも安心していただけるよう配慮していきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	家族構成や状況を出来る限り理解し、双方の関係を踏まえた上でよりよい関係を築き、自然体で支援協力が出来るよう取り組んでいる。また、遠方にいるご家族に対し、電話での連絡を取れるようにするなど心の距離が離れないよう配慮をしている。	○	今後も入居者と家族の関係を理解した上で支援していきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会に制限はなく、気軽に立ち寄れるような雰囲気作りを心がけており、いつでも連絡が取れるよう、面会時には住所、氏名連絡先を記入していただいている。また、ライフストーリーや家族からの情報を基にした、地域の老人会への参加や墓参り、知人宅への訪問等の支援も可能である。	○	今後も家族の理解、協力を得て、家族と共に支援していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	個々の状態や相性を把握して状況を見極め、時には見守り時には介入し、それぞれが孤立しないよう支援している。また、職員を通して日々の生活の中に和を取れるような雰囲気づくり、場面づくりを心がけている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービス終了後も面会や家族会へお誘いしているご家族がおり、また、他施設への転居、入院による退去の場合もお見舞いに行く等、本人・家族の心身状態を汲み取り、相談や支援に応じられるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の些細な言動も見逃さないようにし、思いを汲み取り、それを職員皆で共有し実現できるよう努めている。表現が困難な場合も、その人の対場に立ち、職員全員で考え支援している。	○	今後も家族の理解、協力を得て、家族と共に支援していきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	利用申し込み時点でライフヒストリーを本人、もしくは家族などに記入していただき、入居が決定した場合にもセンター方式シートに本人の情報を記入していただき、スタッフ間での入居者の状況把握に活用している。また、入居前の面会時には担当のケアマネージャーなどから情報を頂いている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日々の気づきや変化を個別アセスメントシートに記入し、本人の状況を総合的に把握している。また、日頃から職員同士で些細な変化や気になることなど声を掛け合い情報交換を密に行っている。	○	年齢や体調にもよるが傾眠が多く、生活にメリハリがあまり見られない。身体、精神面の低下防止の為に、個々にあった得意分野などの活動を取り入れ生活の中にハリが生まれるように支援したい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	日常生活の中の本人の言動、家族からの要望、医療機関からの指示などを取り入れ、月一回のユニット会議の中でケアマネージャーを中心に職員皆で意見を出し合い、ケアプランを作成している。	○	改まって伺わずに、日頃の状態報告の際などの中から思いや願いを受け止め、反映していきたい。面会時、電話連絡等の際に家族の方が思いや考えを話しやすい環境、関係作りに努めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>		
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。</p>		
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。</p>		
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>	○	<p>現在権利擁護事業についての講義の依頼を検討しており、そうした形で協働・連携を進めていけるよう、又、相談などを行えるよう努めていきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居時、管理者と本人、家族とで話し合いを持ち、通院状況を把握し、受診できるよう柔軟に支援している。また、ホームドクターとも良好な関係を築いており、必要に応じ相談、指示を仰ぐことの出来る状態にある。通院できない場合には往診などの対応もしていただいている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	主治医へ常に症状・状態の報告を行い、個々にあった指示・助言をいただき、症状に変化がある場合は専門的な治療を受けられる体制にある。		
45	○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	常勤の看護師を確保しており、日常の健康管理を行っている。また、訪問看護ステーションとの連携もあり医療活用は可能な状況にある。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	家族、主治医、病院との情報交換を密に行うと共に、職員は出来る限り面会へ行き、状態を医療関係者から説明を受けている。また、早期退院に向けた連携を取れるような関係作りを心がけている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入居時家族に終末期ケアについて説明を行い、意向についても確認を行っている。また、病状に変化の合った場合は、医師に家族・管理者で状態の説明を受け、運営者を変え再度、ホームで出来るケアを具体的に検討・説明しているが、現在容態の安定されている利用者に関しては詳しい話し合いが設けられてはいない。	○	すべての利用者を対象に、終末期ケアに関してご家族と話し合い、又、文章での確認など検討する必要がある。話し合いを十分に行い、家族、スタッフ、医療機関等の連携を取り、方針を共有していきたい。家族とDrとが話せる機会を積極的に提供していきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	ホームドクターの協力の下、指示・助言に対しスタッフ間で重度化や終末期について話し合い、今後の変化に備える努力を行っている。また、地域の訪問看護ステーションからもアドバイスを頂くなどの協力も得られ、全スタッフでの支援に取り組める体制にある。	○	家族にホームで出来ること出来ないことを明確にし、理解をして頂けるような話し合いを行う。状態に応じ、その都度意思の確認の為の話し合いを行う。家族、医療機関での協力体制でも範囲を明確にする。医師を含めた話し合いをもっとしていきたい。変化した場合の対応について、前持った話し合いを十分に行い、準備していきたい。



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>環境面、身体面などを配慮した上で家族と十分話し合い、情報を共有し、意向に添えるよう努めている。また、使い慣れた家具を使用するなど本人へのダメージが最小限に抑えられるよう努めている。</p>		
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>運営者・管理者より、日頃から個々の人格尊重やプライバシーへの配慮に関しての指導があり、人格や性格に応じた声掛けや支援・対応を心がけて取り組んでいる。また、記録の管理・保管も徹底して行っている。</p>		
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>出来るだけ本人が納得できるよう、自分からうまく表現できない方でも、スタッフ側で一方的に決めることなく、本人が意見・要望を表現しやすいような問いかけや、表情やしぐさから読み取るよう努めている。</p>		
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>本人の希望を重視し、入浴時間や食事方法、食事場所等、希望に合わせて日々の生活を過ごしていただけるよう努めている。</p>	○	職員間の相談、引継ぎの徹底。及び会議での議題とし可能な限り対応する。
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>朝の身支度などで、自分で鏡を見ながら髪を整えて頂いたり、服を選んでいただいたり、身だしなみを気にするということを本人が忘れてしまわないよう支援している。また、可能な方には美容室に出かけていただき、難しい方には出張美容師に来ていただき身だしなみに配慮している。</p>		
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>季節のものを取り入れた食事の提供や、誕生日などの特別な日にはいつもと違うものを提供するなど、食事そのものを楽しめる工夫をしている。また、リビングと台所が同じ空間にあるため調理の音や香りも楽しむことができる。自然な形で台所に入り職員と入居者が一緒に作業を行いやすい環境になっており、個々の能力に応じ、下準備や調理、片づけを一緒に行っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	特定の疾患がない限り喫煙、飲酒は状態にあわせ提供できるようになっている。また、おやつなどは職員と一緒に調理し楽しめるような機会も作っている。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	出来る限り自立して排泄できるよう、排泄時間、間隔を把握、シグナルを察知し声掛け、誘導を行っている。また、外出など日々の状態にあわせ布パンツ・紙パンツ・パットの使い分けを行っている。気持ちよい排泄を促す為、ホットパックや腹部マッサージ、水の音を流すなどの工夫も行っている。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	決まった時間に希望がある入居者に対し、本人のタイミングで入浴できるよう声かけを行っている。また、すすんで入浴をしながら出来ない方にも、嫌々でなく出来るだけ気持ちよく入浴していただけるよう、声掛けなどを工夫している。	○	利用者からの希望がある場合は柔軟に対応したい。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	夜間熟睡できず日中傾眠が見られる場合などは、短時間でも良眠出来るよう臥床への声掛け、ソファで休息していただくなど、安心して休息を取れる環境を作るようにしている。寝付けない方には精神的に安心していただけるようゆっくりと話をしたり、温かい飲み物を提供するなど、その時の状況にて対応している。	○	身体面を考慮しながら、日中傾眠ばかりになるのではなく、メリハリのある生活スタイルになるよう取り組んでいきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	台所仕事、庭仕事、掃除、歌を歌う、ドライブ、散歩など得意なことや好きなことを出来る機会、それらを他入居者と一緒に楽しめるような機会作りにも努めている。	○	役に立っているという喜びや感情、張り合いの部分伸ばしていきたい。また、個々に合わせながら得意な分野で新たに発揮できることを見出だして取り組んでいきたいです。
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	個々の能力・希望によるが、家族と相談し理解していただいた上で、金額を決め所持していただいている。	○	買い物などの場面の提供が少ないと思われる。本人をゆっくり、急かさず支払えるようなお店での買い物を楽しんでいただけるよう支援したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	個々の希望にそっていつでも外出とは出来ていないが、ドライブ、カラオケ、買い物、散歩など、天候や健康状態を考慮しながら、出来るだけ外に出て楽しんでいただく機会を作るようにしている。入居者から外出したいという要望が出る事が少ない為、こちらからの外出の声掛けが多い。	○	要望がある場合は調整し、出来る限り対応したい。外出が本人にとって心地よく感じていただけるよう努力したい。
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	日常の会話の中から本人の要望などを汲み取り、それを家族に相談し、家族と共に外出できる機会を作っている。また、法事などへの出席や外泊も出来るよう努めている。	○	個々の体力面の低下により慎重な対応になってきている。体力面に十分配慮し家族の協力を得ながら、個々の希望にそった外出支援が出来るよう努めていきたい。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	事前に家族に電話連絡が可能な時間を聞き、入居者本人から要望があれば可能な限り会話を出来るよう支援している。また、手紙などは職員側から家族にお願いし書いて頂くこともある。家族からの要望にて携帯電話を用意されている方もいる。	○	携帯電話を所持している方はいるが、本人に電話を持っているという自覚はなく、あまり有効に活用されていない。一人でかけることは出来ず、また、かかってきた電話を受けることも出来ないの、職員が積極的に声をかけ有効に利用し、電話で話す事が本人の楽しみの一つになればと考えている。
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時間の設定・制限はなく、気軽に訪問でき、リビングや居室でゆっくり過ごしていただいている。また、家族と一緒に宿泊出来るよう寝具の用意を行っている。どなたか分からず入居者が戸惑ってしまうような場合はすぐに職員が介入できるよう、さりげない見守りを行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	ユニットごとにマニュアルを設置、運営者・管理者より会議等利用ししっかりした指導がされており、拘束をしないケアに努めている。	○	勉強会等の機会を持って、再確認し繰り返し学んでいきたい。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間は防犯の為玄関を施錠しているが、日中は施錠を行っておらず、自由に外出できる。職員は声を掛け合い利用者の所在を把握し、安全に外出できるよう支援している。居室もプライバシー保護のため施錠が出来るようになってきているが、非常事態に備えスペアキーが各ユニットに用意されている。	○	ふとした時何処に居るのか見失い焦ることがある。事故を起こさないよう、今後さらに職員同士声を掛け合い、連携して取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	入居者の動きを自然な形でさりげなく見守り、所在の確認・把握を職員全員で声を掛け合い、安全管理への配慮に努めている。夜間は特に一つ一つの音に注意、反応し異常がないか確認している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	保管場所を取り決め、入居者から要望があれば貸し出しを行い、使用中はさりげなく見守り、あるいは一緒に使用するなど工夫している。また、入居者の管理能力に合わせ、見守り回収を行っているが、徹底されていないこともある。	○	以前より洗剤等の保管に関して改善はされているが、台所用品・薬剤等の保管場所、管理についても一度全ての職員が統一して危険防止できるよう、再確認する必要がある。
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故は常に起こり得ることを念頭に置き、個々の入居者の行動、容態の観察を行い、些細な変化を見逃すことの内容に取り組んでいる。避難訓練や救急救命講習の受講、救急マニュアルを熟読するなどそれぞれ学び、事故防止に取り組んでいる。	○	勉強会等の機会を持って、再確認し繰り返し学んでいきたい。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	各ユニットにマニュアルが用意され、いつでも確認できる。全職員は2年に1度定期的に救命講習を受講。また、ホームの看護師により会議等の勉強会で指導を受け、急変時や不測の事態に対応できる体制となっている。	○	とっさの対応は難しいものであり、冷静さを失いがちであるため、気を引き締めるという意味でも年に数回は全体で緊急時に備えた勉強会をしたい。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回自衛消防活動を実施し、消防署職員を招き消防活動に対し、指導、助言を頂いている。	○	今後、DS、グランデージの職員と一緒に参加できることを希望・検討している。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	面会時や近況報告の際に、その時起こりうるリスクについての説明を行っている。また、抑圧感の無い暮らしを送って頂けるよう対応策についても合わせて話し合っている。	○	今後も近況、状態報告を細かく行い、家族の十分な理解、協力を得る必要がある。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	バイタル等の記録管理により利用者個々の状態・行動を把握。また、毎朝のミーティングや出勤時の引継ぎだけでなく、些細な変化にもその都度職員間で声を掛け合い観察を行っている。変化があった場合は速やかにホーム看護師に報告指示を仰ぎ、迅速に対応できる体制にある。	○	身体的、年齢的にも容態観察が必要な入居者が増えているので、一つ一つ見落とすことのないように今後もチームで対応し取組んでいきたい。
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方箋をアセスメントファイルに挟み、常に内容を確認出来る様配慮している。薬の内容、副作用について薬剤師より説明、指導を受け、全職員が理解できるよう情報を共有している。また、薬は起床時・食後・就寝前毎に袋に分けて入れ、服薬の際には名前・日付・時間間違いがないか再度確認している。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	普段から排便確認を重視し排便チェックシートに記録、確認している。また、食物繊維の多い食材・献立での食事提供、水分管理、腹部マッサージや気分転換を兼ねての歩行運動をホーム内の廊下や階段を利用して行うなど、服薬だけに頼らず可能な限り自然排便に繋がる様取り組んでいる。	○	季節に関わらず年齢や体調を配慮しながら出来る、廊下での歩行運動を継続し定着していきたい。食物繊維を意識した献立や青汁など今後さらに工夫し、取組んでいきたい。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	口腔ケアは個々に合わせて行い、歯磨きが不可能な方にはイソジンでのうがいや紅茶を染み込ませた脱脂綿での口腔ケアを行っている。起床時・就寝時の口腔ケアは全員が行っているが、毎食後の口腔ケアは全員は行っていない。	○	毎食後個々の状態に合わせた口腔ケアを実施し、習慣付けていきたい。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量の確認が必要な入居者に対してはケアプランに載せ、毎食チェックを行いアセスメントシートに記入している。個々の健康状態、食事摂取量によっては主治医へ相談し、栄養補助食品を提供している。水分量は全入居者アセスメントシートに記入し把握、調節している。また、食事や水分提供時は個々の状態に合わせてながら、必要に応じ一部介助や声かけを行い、拒否のある場合などは、落ち着いて食べられる場所や時間、状況などを配慮し提供を行っている。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルが各ユニットに設置され常に確認出来る。うがいや手洗い、汚物処理の際の手袋着用と塩素系漂白剤の使用などの日常的な予防の他、インフルエンザの予防注射など感染症の流行に合わせて対策を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食中毒マニュアルを作成。布巾やまな板はこまめな除菌消毒を行っているが、台所周辺の衛生環境は不十分と感じる。食材は新鮮なものをその都度購入しているが、冷蔵庫の使用方法、保存方法など、管理において改善が必要である。	○	冷蔵庫の使用方法、食材(乾物など)の管理方法の見直しを検討する。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関には手書きデザインの看板・大きなポーチを設け、周囲には花を多く植えている。木製の玄関ドアには明るく開放的な空間を作る為窓を設置するなど、明るさと親しみやすい雰囲気作り、工夫がされている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	生活空間は木造造りで暖かな印象を与え、照明は柔らかく適度な光のものを使用。音に対し敏感な入居者に配慮し、不快な大きな音や足音にも配慮している。また、装飾品は季節に応じて交換、居室のカレンダーには手作りのものを使用するなど、温かく居心地のよい雰囲気作りにも努めている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	廊下・リビング・喫煙所など各所に椅子を設置し、それぞれが好きな場所を選択し、思い思いに心地よく過ごせるよう工夫している。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家族と相談し、入居者の入居の状況に合わせ、使い慣れたものやもしくは新たに購入した好みのものを使用して頂き、入居者が安心して過ごせるような工夫、配慮をしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	室温湿度には十分に配慮し、窓の開閉による空気の入替え、空気清浄機・加湿器の使用により心地よい環境を確保するよう努めている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	日常生活においてリハビリが出来るよう階段を設置、見た目から疲労感を与えないよう踊り場を作るなど心身ともに配慮した設計となっている。廊下・トイレには手すりを設置、階段・浴室には手すりの他滑り止めが設置され、安全で自立した生活が送れるよう工夫されている。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	夜間トイレの場所に戸惑わず、通所しやすいよう誘導等を設置。家具など馴染みのものを使用し、環境に大きな変化が無い様配慮するなど、残存能力を見極め個々のわかる力を活かし、自立した生活を送れる様日々工夫を行っている。		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	敷地内にはベランダ、中庭、家庭菜園があり、庭で作業をする他にも、設置してあるベンチやテーブルで昼食をとったり、日光浴をしたりなど、入居者個々の活動に合わせ利用している。また、庭が遊歩道に隣接しており、入居者が遊歩道を散歩をしたり、遊歩道を歩く地域の方と挨拶を交わしたりと、近隣の方との触れ合うことのできる恵まれた環境にある。		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんど掴んでいない</li> </ul>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> <li>①毎日ある</li> <li>②数日に1回程度ある</li> <li>③たまにある</li> <li>④ほとんどない</li> </ul>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての家族</li> <li>②家族の2/3くらい</li> <li>③家族の1/3くらい</li> <li>④ほとんどできていない</li> </ul>



V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
96	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている</p> <p>①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない</p>
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

- ・日々生活の中で喜怒哀楽が自由で自然に表現できる雰囲気の中で暮らせる支援をスタッフ全員で行っている。
- ・日頃から、入居者の状態や変化、気づき等皆で意見交換が出来る雰囲気である。また、容態観察が必要になった場合でもその方に集中するのではなく、職員バランスよく配置が出来、常に連携が取れ、容態報告もスムーズに行われている。
- ・チームワークが良い。
- ・入居者の体調の変化や病気、認知症の進行など日々変化している中で、様々な事例に固定観念で対応することなく、柔軟に対応していきたい。可能な限り利用者の希望に応え、安全で快適な暮らしが出来るように、職員間の相談や議論、コミュニケーションを切らすことなく力を合わせて支援していきたい。
- ・スタッフは声を掛け合い、フォローし合いながら仕事に取り組んでおり、雰囲気もよい。